

経済学入門（春学期 笹山） 練習問題

【1】 昨年の GDP を A, 今年の GDP を B とします. このとき, 今年の GDP 成長率を A, B の記号を用いて書きなさい.

【2】 初期の四半期 GDP を A とおきます. 四半期 GDP が前期比に比べて 1% 成長したとします. この率で残りの四半期も成長したとすると 1 年後の GDP はいくらになるでしょうか. 記号と数値を用いて式を作りなさい.

【3】 以下の項目で GDP に含まれるものは○, そうでないものには×を記しなさい. さらにその理由を書きなさい. 理由

1. 株式保有によって生じた値上がり益 () ()
2. 外国で働いて得た所得 () ()
3. 企業の原材料などの中間財の取引額 () ()
4. 主婦の家事労働 () ()
5. 遺産相続で得た所得 () ()

【4】 以下の GDE (=GDP) の定義を埋めなさい.

GDE (国内総支出) = 民間最終消費支出 +
民間住宅投資 + () + 民間在庫品増加 +
政府最終消費支出 + 公的固定資本形成 + 公的在庫品増加 +
財・サービスの輸出 - 財・サービスの輸入

記号を使って記すと

$$Y = () + () + () + () - ()$$

【5】 以下の空欄を埋めなさい.

GDP (国内) とは, ある一定期間内 (通常 1 年間) に, ()
で () された () の粗 () の合計で
あり, () 財の取引は含まない. それは () 計算を避ける
ためである. 中間財の取引を含めて財サービスの流れを包括的に記録したの

が、産業（ ）である。この表を横にみると、それは（ ）先別の取引となり、縦にみるとそれは（ ）の構成からとらえることになる。

【6】ある国のマクロ経済のバランスは、民間部門の貯蓄超過が15兆円、政府の財政赤字が9兆円であったという。このとき、経常収支はいくらの黒字あるいは赤字になっているかを計算しなさい。

(ヒント) IS バランスの式を使うこと。

【7】物価指数について以下の空欄を埋めなさい。

代表的な物価指数には、（ ）指数と（ ）指数、それにGDPの物価指数に相当するGDPデフレーターがある。

物価指数は単純平均でなく（ ）平均で計算される。重み(ウェイト)を計算する方法には、基準時点の数量を用いる（ ）方式と比較時点の数量を用いる（ ）方式がある。

【8】A財、B財の2つの財だけからなる経済において下の表のように基準時点、比較時点の価格、数量が与えられるとき、基準時点を100として比較時点の物価指数をラスパイレ方式で求めなさい。

	基準時点		比較時点	
	価格	数量	価格	数量
A財	10	20	20	35
B財	30	10	40	25

【9】消費関数が $C = C_0 + cY$ と与えられています。このとき以下の問に答えなさい。

1) C_0 を（ ）といい、その値は（ ）である。

2) c を（ ）といい、その値は（ ）の範囲の値をとる。

3) c の意味を説明しなさい。

4) 上の消費関数を図示しなさい。

【10】次の表は可処分所得と消費の関係を表した消費関数上の組み合わせを示しています。消費関数は線形（一次関数）であることを前提として、この表から消費関数の式を求めなさい。消費は C , 所得は Y の記号を用いて書きなさい。

所得	0	30	60	90	120
消費	10	30	50	70	90

【11】マクロ経済モデルは次のようになっています。

財市場の均衡式 $Y = C + I$,

消費関数 $C = 50 + 0.8 Y$,

投資 $I = 50$

このとき GDP の決定を図解する 45 度線図を作成し、均衡所得の値を求めなさい。

【12】海外部門を捨象した経済において、以下のような関係が成立している。

このときの均衡所得水準はいくらか。ただし、単位は兆円。

$$Y = C + I + G \quad (1)$$

$$C = 10 + 0.8 Y_d \quad (2)$$

$$I = 50 \quad (3)$$

$$G = 30 \quad (4)$$

$$T = 0.2 Y \quad (5)$$

$$Y_d = Y - T \quad (6)$$

ここで、 Y は GDP, Y_d は可処分所得, C は消費, I は投資, G は政府支出, T は租税。

【13】自立的支出増加が 10 で、限界消費性向が 0.6 のとき、自立的支出増加と派生需要の増加の流列の合計は、無限等比数列とみなして、次のように計算できます。

$$A = 10 + 0.6 \cdot 10 + 0.6^2 \cdot 10 + 0.6^3 \cdot 10 + \dots + 0.6^n \cdot 10 + \dots \quad (1)$$

$0.6 \cdot A$ を計算する,

$$0.6 \cdot A = 0.6 \cdot 10 + 0.6^2 \cdot 10 + \dots \quad (2)$$

(1) - (2) を計算すると、

$$A - 0.6A = (\quad)$$

従って、 $A = (\quad)$

ゆえに、以下のような公式が得られる。

無限等比級数の和の公式 $= (\quad)$

【14】 自立的支出増加が 10 で、限界消費性向が 0.6 のとき、自立的支出増加と派生需要の増加の流列の合計は、次のようになります。これを無限等比数列とみなして、その合計を計算しなさい。必ず式をかいて計算すること。

$$10 + 6 + 3.6 + 2.16 + 1.296 + \dots$$

初項= \quad , 公比= \quad

需要増加の合計 $=$